

アンケート回答数1,138名

○エリア分けの詳細と回答人数（※エリアは現在の居住地で分けています）

北海道(29名) 北海道

東北(72名) 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県

福島県(325名) 福島県のみ浜通り、中通り、会津の3つに分けています

関東(431名) 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部(94名) 新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、長野県、山梨県、静岡県、愛知県

近畿(75名) 三重県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県

中国・四国(30名) 岡山県、広島県、山口県、鳥取県、島根県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県

九州(32名) 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県

福島→県外(19名) 震災当時は福島県内に在住、現在は福島県外に在住

県外→福島(18名) 震災当時は福島県外に在住、現在は福島県内に在住

海外→県外(2名) 震災当時は海外に在住、現在は福島県外に在住

地域不明(11名) 居住地の記載無し

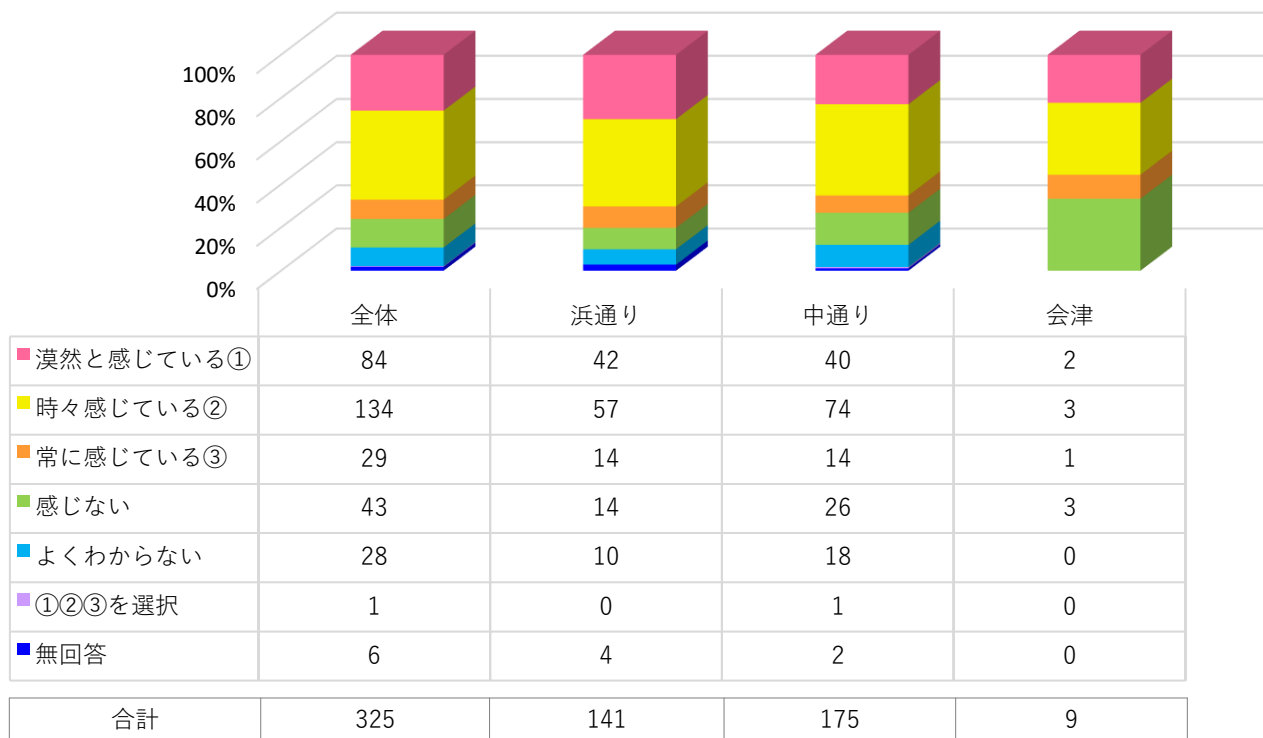
※回答者からのコメントは記載通りに掲載しています

※回答項目以外の回答やコメントは「その他」として掲載しています

Q21. 福島原発事故に関連することから精神的に不安に感じていることはありますか。



【福島県の内訳】



【浜通り】

- 東電の補助金の差別にて相双地区住民は不安をかかえていると思います。南相馬⇄広野と相馬、新地の差が大きい。しかし皆市町村をまたいで仕事をしている。特に高速道路の無料か否かで、子どもたちの遠征にも影響がある。

Q22. 「感じている」と答えた方、何について不安なのかお書きください。

【北海道】

- ・ 廃炉までの被爆される多くの作業員の方、放射性廃棄物質の最終処分問題
- ・ 日本の将来
- ・ 北海道にも泊原発があり人ごとではない
- ・ 核燃料の最終処分所場
- ・ 3号機によるプルトニウム拡散燃料のだだもれ
- ・ 環境汚染・原発の再稼働・健康被害・被災者支援
- ・ 廃炉が進まない
- ・ 当時若かった人への影響、動物、魚、貝、海藻への影響
- ・ 事故を起こした側が事故をなかったことのようにしようとしている
- ・ 原子力に関する政策が暴走
- ・ 将来
- ・ 福島第一以外の原発再稼働のニュースをみるたびに同様の事故の可能性はゼロでないのではと。
- ・ 子どもたちの将来について、健康を維持できるのか
- ・ 原子力発電そのものについての不安。核ごみの処理について考えが至らない状態でなぜ稼働しているのか
- ・ 健康問題、当事者の生活問題、社会的差別問題、精神的諸問題
- ・ 環境
- ・ 放射能流出の継続が不安。仮設住宅などが気がかり
- ・ 今後原子力をエネルギー源として利用すること
- ・ 今後どのように影響あるかわからないこと
- ・ 札幌でも環境中の放射線量が増加している
- ・ 原発を再稼働させている電力会社、国に対して憤りを感じるとともにどこかでまた同様の惨事が起きるのではという不安感。

【東北】

- ・ 将来への不安
- ・ 原発事故後一週間位外で炊き出しをしていたため、外にずっといた
- ・ 娘の引っ越し等で事故直後相馬に何度も行っており、甲状腺との関係
- ・ 他の稼働原発についての災害時の対応について
- ・ 放射能による健康被害が今後どの様に現れるか現れても政府は隠し続けるのではないか
- ・ 子どもたちの将来の健康
- ・ 子どもたちの健康被害
- ・ 風評と体の健康
- ・ これからの世代に申し訳ない原発を反対しながらも力になって来なかった。いつ事故が起きるか。核のゴミをどうするか
- ・ このまま今の場所に住み続けていいか
- ・ 海の魚や海藻など
- ・ 遺伝子障害
- ・ がんの病気の事
- ・ ここで生活して病気にならないか
- ・ 子ども達への影響
- ・ 原発の廃炉の仕方
- ・ わからないことが多過ぎて何が不安なのかさえわからない
- ・ 宮城県にも女川原子力発電所があり、再稼働に知事、女川町、石巻市共に同意したこと
- ・ 健康状態
- ・ 他の原発が再稼働されること。日本で原発中止にならないこと
- ・ 福島第1原発地域付近は人が住めない
- ・ 子どもの放射能に対しての健康被害、子どもの将来の結婚や孫の事
- ・ 将来の発症

【東北】 つづき

- ・原発に依存してるエネルギー
- ・台風、地震。何らかによる破壊、破損
- ・線量の高かった山元町に住んでいて健康被害について
- ・放射能による健康への影響
- ・先々の事を考えると何だか不安になる
- ・自分の住んでいるところにも被害があるのでは
- ・子どもが 2011 年 6 月生まれで成長と共に甲状腺に異常が出ないか
- ・女川原発の再稼働が迫りつつあるから
- ・地震発生や悪天候で建物等への影響がないか
- ・セシウム・トリチウムなど半減期が数十年と長いので知識が乏しく不安を感じる
- ・事故が収束せず汚染物質の始末の目途が立っていない
- ・被爆による健康被害がいつでるのか
- ・廃炉までの期間が気の長くなるほど遠いこと。作業が進むのか
- ・長い時間をかけて放射線が体に与える影響
- ・子ども達の体。将来
- ・現地への旅行等
- ・県をまたいでの影響、関東や他の地域はどうなのか。今はコロナ禍で忘れ去られている様だが忘れてはいけない問題だと感じる
- ・廃炉作業の遅れや事故などで放射能の拡散
- ・不安ではなく課題として。汚染の現状周知と廃炉の具体的な計画
- ・食べ物、山菜やきのこなど時々食べていいか

【浜通り】

- ・何時また災害があり異常事態になるかについて
- ・健康被害と食の安全について
- ・子どもが大きく大人になってからについて
- ・2011 年に長男を出産したため子どもの健康が心配になる。最近感じなくなったなと思っていたが、次女が先天性心疾患となり不安がまたでてきた
- ・健康について
- ・大熊町も今復興に向けて住めるようにしているが大丈夫かについて
- ・子どもが震災について TV や報道に過剰に反応することについて
- ・子どもたちの健康とこれからのこと(廃炉など)
- ・原発事故の放射能のかたまりがすぐそこにあるのだから
- ・いわきに住み続けて、子どもたちは大丈夫だろうか
- ・解体作業の事故、余震による津波について
- ・いつ病気になるか(ガンなど)
- ・健康。再び地震や津波があった時の事
- ・今後の子どもの健康面
- ・今後ガンになりやすくなってしまうのではないかについて
- ・また同じ事が起きるかもしれないという事
- ・子どもたちに影響がないのかについて
- ・10 年後、20 年後、30 年後…子どもや孫の健康にどの程度悪影響が及ぶのかについて
- ・今後、子ども達、その先の世代にどのような影響がでるかについて
- ・いまだに収束しない作業中に、何事か起きての空気汚染について
- ・子ども達のこの先の健康について
- ・これからの健康障害、鬱っぽくなる
- ・目に見えない物に対する有害なもの
- ・両親の不安を間近で感じているから
- ・また爆発しないか
- ・今後、20 年、30 年後の自分も家族もふくめ健康問題や結婚など

【浜通り】 つづき

- ・ 将来的な健康
- ・ 被曝など
- ・ 自分やこの先の世代に生じる影響
- ・ この先 10 年～20 年後の体への影響について
- ・ 生活環境の安全性や健康被害
- ・ 避難された方達と地元住民の格差を未だに感じる
- ・ がんについて
- ・ 生活について
- ・ 流入してきた家族との格差(補償金などにより子どもにお金をかけているように見受けられる)
- ・ 事故時の被ばくに加え、今現在も被ばくし続けている状況や体への影響
- ・ 子どもたちの将来への影響など
- ・ 娘の健康
- ・ 今後の健康被害
- ・ 廃炉にするのにも長い年月がかかることと、やはり汚染水の処理について
- ・ 自然界、動物界が破壊され続けている
- ・ 子、孫の将来的な健康に関する全体的不安
- ・ 今後の健康
- ・ 正しい知識がないことと、今後の生活についての不安
- ・ 遺伝していくのか、経済的格差
- ・ なんとなく大丈夫かな？
- ・ まずは子ども達に何もないか、時々ですがなんとなく
- ・ 自分達ではなく、子ども達が大きくなった時に何か悪い影響があるのではないかという不安
- ・ 空間線量は少なくなって来てるが、山菜やキノコ類の汚染が高いことから子どもや孫達が戻って暮せる環境になく、自分達亡き後の不動産等のこと、いろいろ
- ・ 健康状態がこれからどうなるのか
- ・ 内部被ばく
- ・ 子どもが大人になった時に何か病気になるのではないかと
- ・ 子どもの健康
- ・ 食品の安全性と汚染処理問題
- ・ 現在も身体に影響があるのか
- ・ 生きること
- ・ 健康について
- ・ 震災後に生まれた子どもたちの健康について
- ・ しょう来的な子どもへの遺伝
- ・ 将来的な大原発事故・放射能汚染について
- ・ 子ども達の将来に何かしらの病状が出ないか
- ・ 今後の人体影響と見えない放射能への恐怖感
- ・ 今後身体などに様々な影響を与えるのでは…と
- ・ 放射能がまだ残っていないか
- ・ 生活の全て
- ・ また同じようなことが起きてしまったら…と
- ・ 孫達が小中学生だったので、今後身体への影響が心配
- ・ 放射性物質の状態
- ・ 将来何らかの病気になる不安
- ・ 地震があると原発は大丈夫なのか、また避難するようになるのか心配になる
- ・ 急に体に異状がでるのではないかと
- ・ これからの将来、放射能の影響がどうなるのか
- ・ 全てを原発事故に引き付けることによって人生評価を誤りはしないかということ
- ・ 将来のがん発症について
- ・ 将来的な子どもの健康への影響

【浜通り】 つづき

- ・現在の放射線量。魚介類がほんとうに安全か
- ・放射性物質による健康への影響
- ・廃炉
- ・廃炉のデブリの取り出し、見通しがない
- ・子どもが病気にならないか
- ・自分も含め、子どもや孫、子の健康と発達、自分の認知症など
- ・10、20年後…健康状態
- ・健康、生活
- ・数年検査して大丈夫だと国が判断して検査やケアを止めてしまうのではないか
- ・国、県、東電の無責任さのゆくえと自身の将来的な健康
- ・心身の影響や差別
- ・事故後、どういう病気等、影響があるのか不安
- ・このままいわきに住んで子供達は大丈夫かと考える
- ・子ども達の将来(進学や結婚、他の県に行って良く思われたい気がする。知人がそれで結婚の話がなくなった。相手親に福島の人とは×と言われた。あいさつに行った時言われたそうです。)
- ・子どもが進学や就職で他県に住むことになった時いじめとか
- ・今後の福島はどうなるのか??ここに生まれ住んでいる子ども達は将来差別されるようなことがあるのか
- ・トリチウムを含む多種の放射性物質による健康被害
- ・将来、子ども達に悪い影響がないのか

【中通り】

- ・農作物の安全性
- ・子どもの将来
- ・子どもが将来的に健康が損なわれるのではないかと
- ・今後どうなるのか、身体に異常は起きないのか
- ・体への影響が不明確
- ・がんの発性の可能性、自分自身、子どもが産めるのかどうか
- ・食品、魚、ホットスポットについて
- ・甲状腺がんのことも含め、放射線の影響
- ・子どもの健康。(また、気にする割に、福島県産の野菜などを食べている事。)
- ・生活再建
- ・将来的に健康被害があったらと思うと怖い
- ・何事も無かったように魚介類を食べているが、半減期の長いストロンチウムが今後心配。若い人達の白血病の増加や関節の痛みを訴える人が増えていると思います。
- ・放射線能による汚染物と共存していくこと
- ・高年令にて出るのではないか
- ・将来の疾病の可能性
- ・将来、病気などがでないか
- ・今後の健康
- ・また原発が爆発してしまったら、もう、福島では暮らせないから
- ・健康状態
- ・他県の人から、“福島”を軽べつされることに対する不安
- ・子どもが将来身体に異常が出ないか
- ・子ども達が出産をした時に生まれてくる子に影響はないのか
- ・子どもの将来の健康
- ・これから先大丈夫か? 影響ないか心配
- ・子供たちへの体への影響
- ・またもれるのではないか? 子どもの将来
- ・子どもの将来 病気にならないか
- ・娘が当時の事を思い出す時 福島が他地域と差別されていると感じていたらしいこと

【中通り】 つづき

- ・健康被害について、もし被害が出た際に、原発由来と証明できるのか
- ・病気、環境
- ・子が小児がんになってしまったのは避難しなかった「自分のせい」が頭から離れない
- ・今でも何が正しいのかなやむ時があり
- ・病気になるのでは
- ・放射線の影響
- ・子どもの将来の健康への影響
- ・人間、動物、植物、全ての生き物の生態系
- ・地震等で新たに放射能放出されないか
- ・家族・自分の健康、食品に対する不安、公園にある立入禁止(汚染土が今もある)
- ・いつ放射線の被害で病気になるか
- ・将来、子ども達に健康被害が出ないかどうか
- ・体調の変化
- ・被ばくにより、何かしらの病気が発症しないかどうか
- ・健康
- ・今後の健康状態について
- ・電源や冷却水が中断し再暴発しないか心配
- ・少し体調が悪かったり、甲状腺の数値が高いと、がんなのでは…と
- ・慣れがこわい
- ・再度のメルトダウン二次災害、地表に積もる見えない放射性物質
- ・目に見えないので、政府が発表している事の信ぴょう性
- ・子どもたちの健康被害
- ・子どもをとりまく環境(食、遊び場等)・健康
- ・原発事故から 10 年経つが、今後健康被害は出ないのか
- ・子どもへの健康被害。特に甲状腺やガン。また将来結婚する際などに(福島県出身であることで弊害が出ないか心配している)
- ・現在も健康状態に影響があるのか
- ・身体健康
- ・これから生まれて来る子ども達の事
- ・集中力がなくなるとか発ガンとか、福島県民でそれが原因で結婚反対されたり、孫やひ孫時代に体に障害が出ないか
- ・我家室内の放射能は 0.13~0.15 より減らない、周りは山、長期的被ばくによる影響
- ・子どもの出産
- ・又、3・11 の時のようになるのではないかと
- ・がんの病気
- ・これから 10 年後 20 年後に体に影響はないのか
- ・将来の子ども達への影響
- ・心身の健康(将来の)
- ・子どもの健康
- ・10 年経過し、子ども達も大きくなった、この先も国は子ども達を守ってくれるか
- ・子どもの結婚や赤ちゃんに影響がないか不安
- ・環境回復ができるのか。子どもたちの将来。
- ・今もそこに福島原発がある限り、恐怖を感じる。原発事故当時、小さかった子供達の将来に渡る健康
- ・事故直後は放射線について過敏になっていたが、年数を経るごとに慣れてきているのが正直なところだが、将来の子ども健康はどうか
- ・何が起こるか分からない事に不安を感じている(ショックからまだ立ち上がれない)
- ・子どもの将来(健康、結婚、出産)
- ・子どもの将来が”福島”生まれで困らないか
- ・今後の健康
- ・将来の健康と原発(デブリ等)を完全に廃棄処分できるまで気がぬけない

【中通り】 つづき

- ・そもそも今も緊急事態宣言中だし、終息しておらず、その方法も分かっておらずまだ出ているということ
- ・またおきたらどうしようと考えている

【会津地方】

- ・時々、サッカーの遠征で「ヴィレッジや相馬、いわきなどに行きますが、放射線の高さについて
- ・今後子ども達が大きくなった時に「福島の人だから」という目で見られるのではないか？について
- ・海洋汚染について
- ・事故が起きたのに再稼働を進める政府に怒りと、事故はまた起きるということについて
- ・放射線の健康への影響について
- ・町が帰町する方向の政策ばかりで、避難先の支援をしないことについて

【関東】

- ・再爆発
- ・健康、地球環境
- ・負の遺産をこのまま放置し、それが子ども達に影響するかもしれないこと。風化どころかコロナでふきとびそう！
- ・長期的な体内被曝の影響
- ・皆が余りに無頓着すぎる
- ・原発の再稼働へと国が動いていること
- ・原発事故を経験しても女川原発の再稼働を決めた宮城県の方針
- ・国が原発依存するを捨てないこと
- ・健康問題
- ・ホットスポットがどこにあるかわからない。農地と食品への影響
- ・からだに取り込まれた放射性物質がどんどん増えている
- ・再稼働する原発が出てきている事。又、それを容認する風潮
- ・人々の現在および将来の健康
- ・日本だけでなく、世界の子ども、若者たちの将来
- ・千葉の放射能、食品の安全、子ども達の将来
- ・地震が起きた時にまた同じような問題が起きるのではと思う
- ・子どものガン
- ・子どもの将来(食べもの、環境、その他生きていく為の全て)
- ・今はコロナ中心でメディアでは取り上げられているが、このまま日本という国が震災後の子どもたちの経過などを風化させてしまうのではないかと
- ・子どもたちの健康、見えない恐怖
- ・子どもへの影響
- ・放射線が人体に及ぼす影響、放射線を浴びた野菜や魚等の行政の対応
- ・特に子どもの健康への影響
- ・健康被害
- ・健康被害
- ・現在の工事の進み具合、工事にかかわる人たちの健康状態、果たしてどれだけの時間、労力がかかるのかについて
- ・時と共に忘れ去られるのではと。線量の高い所もあるのに帰る事をうながしている
- ・きのこや山菜など(天然の)まだ放射線量の高い食べ物が出回っていること
- ・今後残る汚染と増え続ける汚染水がどの様に汚染を広げてゆくか
- ・肉や野菜の汚染について
- ・被曝した身体のこと、又、被災した地域や海、山の安全
- ・他の原発でも同様の事故が起こるのではないか
- ・環境、農作物、海産物 etc 食品、河川汚染
- ・原発事故後に発症した適応障害が治癒するのか

【関東】 つづき

- ・事故原発が収束するまで作業の人々の安全がどのくらい守られているか、再び大地震があった時の現場の安全
- ・事故は終わっていない。放射能は出続けている。終束が見えない
- ・子どもの健康への影響
- ・福島の子どもたちの健康
- ・原発銀座の日本列島はこのような事故がまた起きるのではないか
- ・食品からの体内被曝
- ・大気、土壌、水の汚染が広がったという事は体内に蓄積していくということ。生命維持できるのか
- ・体や自然への被害
- ・重要と思われる事について検討をし、環境影響に関して調査研究されていない事
- ・健康への影響、原発の利用
- ・原発、核燃の再びの過酷事故、汚染された食物と空気
- ・先が見えない事、先の日本がどうなるのか
- ・収束が見通せない。他の原発の再稼働や核廃棄物処分問題
- ・女川原発が発動する。これから何にも反省しないでどんどん原発が発動していくことに
- ・又大きな地震が来たら茨城に原発があるので心配だ
- ・原発がある事が不安
- ・原発の再開
- ・放射能又事故が起きないとは限らないから
- ・何年後にどのような症状が出るのか、子どもの将来
- ・人体、環境への影響
- ・空気、土の汚染、海洋汚染等全般的な放射能汚染
- ・この事故を経験したこの国で原発再稼働の動きがあること
- ・原発の廃棄物の処理=海の汚染 etc
- ・地震の多い日本に原子力発電所は危険だと。
- ・健康、地球環境、地域の破壊
- ・健康、経済、政治
- ・自身の事よりも現地の人たちの健康。特に子どもたち
- ・永久に解決できない問題を抱えていることに対する不安
- ・目に見えないもので経験したことがないものなので
- ・核のゴミ、汚染場所のクリーニング、政府の原発行政方針
- ・今後の対応、未来も原発を使おうとしていることへの怒り
- ・再び事故が起きるのではないか
- ・収束廃炉に向かって着実な方策が立てられているとは思えないから。
- ・原発再稼働、再度の事故。
- ・汚染水問題、原発再稼働
- ・全国でまだ稼働している原発があり、何らかの事情で放射能漏れを起こすのではないかとということ。
- ・ほとんど永久的に負の遺産を残すことになってしまったこと
- ・今後どうなっていくか。東海で同じようなことが起こったら…
- ・原発の存在そのもの。いつまた事故があるのかわからないこと。
- ・国の政策が本当に妥当であるのかわからないこと。
- ・栃木県益子町は事故による汚染は比較的少ないが、今まではほとんどなかった汚染がある事は確かで、土埃や灰、煙による内部被曝。
- ・原発の危険性。それにも怠らず日本が原発に頼り続けていること。
- ・日本すべてで原発使用を止めないことに。
- ・がんの発症や認知症の発症率が高まっており罹患をするのでは。
- ・また事故が起きたら、もうどうしようもないと言う不安。食い止められない自分。
- ・入るまでの事故、健康管理
- ・放射性物質が長期にわたって自然や人体に影響を及ぼすこと
- ・食材の安全性。過去のものとしての風化。

【関東】 つづき

- ・ 身体、精神への影響、自然環境と動植物など地球への影響
- ・ 破滅的危機の可能性がゼロになったわけではないし放射能処理無害化はほとんど不可能な分野。
- ・ 遺伝の変異、福島に戻れない(避難した方)の生活
- ・ 今後の原発事故。政府や電力会社の取り組みが不十分。教訓を生かさない。
- ・ 再び同じことが（地震）起こったらという不安。
- ・ 今後の健康状態、放射線による影響。
- ・ 汚染度の再利用や処理汚染水の海への投棄など、住環境や自然への悪影響など。
- ・ がんの発症
- ・ 親しい友人の兄さんやお子さんが甲状腺ガンになったり、急死したりするのを家族も被曝による健康影響があるのではないかと。
- ・ 特に内部被曝影響について。微量で長期間上がる放射能の影響。
- ・ 健康を害されていないか。
- ・ 国の無責任と国民の無関心が増えていくこと。
- ・ 長期的な健康不安
- ・ 将来の健康
- ・ 現場のコロナもあり、なんとなく不安は常に感じている。
- ・ 原発の事故がまたどこかで起きないか。
- ・ 人体の健康に対する影響
- ・ 福島以外にも日本には原発が多く存在していること
- ・ 他の動いている原発が、いつ事故を起こすか。核のゴミをどうするのか。
- ・ 皆さんの健康。心と体。
- ・ 晩発性の身体への影響「心理的な抑うつ感」「漠とした恐れ」「人間の愚かさ」「環境汚染」「核廃棄物への保管」など
- ・ 次世代への影響と過去の出来事になってしまうこと
- ・ あれだけの事故を経験しながら、平然と原発は必要と口にする人が多いこと
- ・ この先子どもたちの未来はどうになってしまうのか、食べ物、健康面
- ・ 地球の終焉の始まり
- ・ 地元の人に対する風評被害が不安になる時もある
- ・ あれほどの大事故を経てなお、地震国日本の政府が原発の稼働していること
- ・ 食品の放射線汚染
- ・ ずっと長い未来の空気、水、土壌などについて
- ・ 事故再発
- ・ 健康状態
- ・ 収束する感じがしない
- ・ 地震が起きるたびに原発が崩壊するのでは？と
- ・ 津波だけでなく原発の直接被害のあった福島に在住する人の健康と記憶の風化
- ・ 放射能汚染による特に子どもたちの影響。地震、台風による影響。事故被害者の第二の生活や心身のこと。事故収束作業の安全性、作業員の方々のこと
- ・ 事故処理、かかる費用や年月
- ・ 処理水を含め何も解決していると見えないので
- ・ 事故の核燃料の処理ができていないこと
- ・ 被爆の方々の健康と政府の方針
- ・ 健康への影響
- ・ また爆発したらどうしよう。放射能の身体への影響が怖い。避けきれない問題であること
- ・ 将来的な健康被害
- ・ 又地震が来たらと不安に、またデブリのこと
- ・ 近辺の人々の健康。食品への影響。汚染水などの処理。政府や企業の対応のまずさ
- ・ データや事実の報道がどこかで操作されていること
- ・ 土壌・海・空気の汚染による食べ物への影響。子どもたちへの影響。
- ・ 放射能はなくならないので樹から雨で流れ落ちたものが川へ海へと行き魚に入るなど食物について不安

【関東】 つづき

- ・子どもたちへの影響。
- ・放射能汚染
- ・人体への影響。健康な生活への不安
- ・目に見えないのでどんな影響があるのかわからないこと
- ・汚染が広がることの不安
- ・国民の健康被害は長い時間を経て出るものがある
- ・子どもたちの正常な発達に害を及ぼす
- ・グローバルな環境改善
- ・気がつかないうちに健康を蝕まれているのではないかと不安
- ・まだ緊急事態のまま。解除されていない。放射性物質が出続けている
- ・放射性微粒子による内部被曝
- ・福島や北関東～全国の子どもたちの健康被害が次の世代にどう影響していくのか、日本の未来
- ・健康被害が増えていっても隠され、将来どうなっていくのか
- ・いつ他の原発で事故が発生するのか
- ・放射能による健康被害がどのような形で自分におよぶのか
- ・原発
- ・放射性物質の拡散について正確な情報が伝えられているかどうか
- ・除染した土をビニール袋に入れて敷地内に埋めている。放射線をどれくらい浴びているのか？ 今後の線量はどうなっていくのか？などいろいろある。
- ・埼玉に避難している原発被災者の破壊された人生は決して他人事ではなく流出し続ける放射性物質とそれに影響されること
- ・他の原発でも事故が起きる可能性があるのに原発再稼働
- ・廃炉作業が汚染水の為にいつ終わるのかわからない事
- ・とくに福島の子どもの未来
- ・子どもの身体への影響や将来の子どもの成長への影響
- ・関東など隔地での影響（数値等）発表がないこと
- ・家族、周囲の人々、汚染地域人々への健康影響
- ・社会の分断。不安を感じる者と復興を進めたい者との分断
- ・子ども達の事
- ・子どもたちの将来（健康面）環境への影響
- ・今後の健康について不安
- ・体に自覚症状のない病気が後になって急にでてくるのではないかな。
- ・放射能被害
- ・若い人、子どもたちへの健康被害
- ・将来の健康状態
- ・内部被曝
- ・放射能による健康被害
- ・①CO2 排出抑制のため原発容認論が強まる、②原子力村ムラが隠然たる力を持ち続けていること
- ・大地が汚染されているのはなくなるらない
- ・パートナーが福島原発付近に仕事に行くかもしれない話が出た時の影響
- ・今の子ども達が子育てする時の環境。汚染水、海洋放出による将来日本が負うであろう責任
- ・海洋・地下水・山林汚染・汚染物質拡散
- ・海洋汚染と海産物への放射性物質の残留、摂取
- ・地震が発生するたびに原発から燃料が漏れだす可能性
- ・いつまた漏れるか、収まる方法がない。地震が来た時。食べ物の汚染。海の汚染。沢山ありすぎて不安。
- ・原発事故の原因が未だ解明されていない事
- ・事故に関して正しい知識を国民に伝えていない事から来る
- ・放射性物質の拡散
- ・国民に知らされぬまま、国が汚染水や土を捨てようとしている
- ・同じ事故が他でもおこるのでは

【関東】 つづき

- ・健康被害
- ・人々の心から
- ・安全性
- ・事故を起こした原発の廃炉の道筋が不明。汚染された地域の除染がいつ終わるのか
- ・長女が血液検査で異形リンパ球が見つかった事、好中球がかなり減っていたので
- ・健康被害
- ・先が見えない
- ・再稼働を決めた原発はあり得ない。原発事故の処理が完全に行われない
- ・子どもたちの身体についてこの地球への影響
- ・放射能慢性疾患
- ・地震などによる事故。放射能の拡散
- ・放射能による人体への影響
- ・汚染の状況がメディアで伝えられず（コロナの為）、汚染の現状
- ・想定されていない、人間環境への影響
- ・また地震が起きて放射能が漏れたら、台風竜巻、テロで原発が壊れたら
- ・現在の技術では不可逆的である放射性物質を人類が使っていること
- ・今後子どもたちの生活する環境に対する影響
- ・人々の意識が原発事故から遠のいてしまう
- ・将来の世代に何か影響が出て来るのではないか
- ・事故が起きてからでは遅いが現状では無い事を望む
- ・若年層の方の将来（健康）
- ・汚染物質の処理、他原発での同様の事故の可能性
- ・土地に残存し続ける放射能とその生態にあたえる影響について
- ・これからの子どもたち、これからの日本、これからの地球
- ・終わりのないストレス
- ・食、野山で遊ぶとき、子どもの成長
- ・心身の健康及び廃炉費用などの国家財政の悪化による市民経済の悪化
- ・政府、東電の発表や情報公開が信用できない。終わりが見えないこと
- ・子や孫の世代に影響が出ること
- ・風評被害避難者の生活状態
- ・政府が正しい事を発表せず民間のデータやニュースでしか分からず東京に居ても不安です
- ・様々な病の発生、こどもへの影響（次世代含む）
- ・事故の被害がありながら政治的に隠蔽しようとする状態
- ・原発が次々再稼働すること
- ・正しい情報が伝えられていないので将来起こるかもしれないこと
- ・地震国日本と原発の安全性
- ・国が進めている帰省者、居住者の健康
- ・①地震のある度に福島（他の原発も）は？ ②現状の対応アルプス処理水など
- ・汚染により気づかない病
- ・水・土・空気、私たちが必要とする自然が壊れてしまっていること
- ・出続ける放射性廃棄物、使用済み核燃料の再溶融
- ・福島の食品の安全
- ・今後の健康状態にどのように影響するのか、又はしないのか
- ・娘を 1996 年に白血病で亡くしているので同じように苦しむ人を出したくない
- ・原発がまだ推進されていること、事故の保障がされないこと、処理もきちんとしていないで誤魔化していること
- ・二度目は喜劇（茶番）という評論思い出す
- ・原発事故が風化していくこと
- ・夫の実家が福島なので両親に影響がないか不安である
- ・F1 のような大きな事故以外にも小さな事故による放射線もれは今後も起き続けるのではないかと

【関東】 つづき

- ・ 事故から何を学び信じて良いのか？ タンク保管のトリチウム、デブリ廃炉までの先が見えない
- ・ 放射能汚染がどこまで広がっているのか
- ・ 放射能による影響
- ・ 食品、水の心配
- ・ 子や孫への影響
- ・ 最近私の周りの友人がガンで亡くなる方が多い
- ・ 海洋汚染と海産物への放射性物質の残留、摂取
- ・ 地震が発生するたびに原発から燃料が漏れだす可能性
- ・ 健康被害がいつ出るか、いつでも不思議ではないと思ってるから
- ・ 未来に害があるのではないかと思う
- ・ 子どもの将来
- ・ 汚染水のみならず福島第一はまだ収束していない。他の原発事故
- ・ 他の原発もいつかは同様の事故が起きるのではないか
- ・ 大気中、海への放出により環境に影響を与え生態系～人間へ悪影響が出る
- ・ 今後の生活、汚染水
- ・ 子どもの体調（今後の）
- ・ 子ども達の健康
- ・ 食べ物、空気、水の汚染
- ・ 汚染水を海に流して蓄積され魚に影響がある、日本は地震が多く他の地域の原発も海に近い立地で不安ある、魚も食べたいし
- ・ 10年後、20年後に全ての世代の健康上の変化が顕在化するのではないか
- ・ どの程度影響力があるのか？
- ・ 今でも人体に影響はあるのか
- ・ 生物全般に何か悪影響が出る
- ・ 現在二女は宮城県在住で来年2月に出産予定です
- ・ 再び大地震が起きた場合、メルトダウンしている放射性物質が危険なことになる
- ・ 廃炉処理の行方。原発ゼロに向かわない自民党政府
- ・ 子どもが将来大きな負担を受ける（最終処理）
- ・ 現場処理にあたる方々の健康
- ・ 放射能の数値がとても気になる
- ・ 事故はいつでも起き安定ヨウ素剤の配布すらなされない異常事態
- ・ 事故が起きたのに同じタイプの原発を欧州に売りに行ったりする政治全体
- ・ 放射能汚染による子供たちへの影響、事故処理ができないのに再稼働をすすめている
- ・ 2号機の放射線量が異常に高いことと他の原子炉
- ・ 子どもへの将来に渡る影響（健康や差別）
- ・ もし自分や家族が健康に暮らせたとしても多くの人が病気になったら日本の未来はない。原発問題という大きな弱点を抱えた日本が諸外国から様々な場面で不利に追い込まれるのではないか。
- ・ 放射性物質の処理
- ・ 完全な廃炉ができるか心配
- ・ 再び放射線を出す事故が起こるのではという不安（地震や工事不備）、又は管理できずにもれている放射能もあるのでは
- ・ 今後健康被害が出てくると考えると。未知で無知
- ・ 未だ完全な事故処理の道筋が立っていない
- ・ 将来、突然未知の事態にこの先出会うのでは？
- ・ 原発を再稼働する動きがあるので
- ・ 放射能汚染は未だ解決していないのに、解決したかの様に政治が動こうとしていること
- ・ 収束方法が見いだせない
- ・ 野菜・果物等の安全性
- ・ 次の世代にどの様に影響するのが心配
- ・ 将来の子どもたちの発達

【関東】 つづき

- ・ 事故後の原発のあり方
- ・ 「真」の情報不足
- ・ 四季の食べ物に含まれるセシウム等
- ・ いつまたどこで原発事故が起きるかわからない
- ・ 将来若い世代の方に何らかの影響が出ないか
- ・ 子どもの将来の健康
- ・ 情報がオープンになっていないことで、実はどうなのか不明だし具体的な対応対処のあり方
- ・ 目にみえないので知らずに影響を受けてしまうこと
- ・ 将来なにか病気になるのではないか
- ・ また原発事故が起きたら日本はおしまいになる。日本には住めなくなる。
- ・ 原発事故の影響について国ぐるみで隠ぺいされ 10～20 年後に大きな被害が出るのではないか
- ・ 日本が進むべき電力の方向
- ・ これだけ地震が多く大地震の危険にさらされている。事故が起きるだろうということ
- ・ このまま世の中は変わらないのかなと
- ・ 将来子どもたちに何か健康被害が出るのではないかということ
- ・ 放射能の汚染のひどいエリアに居住を誘導しているので住民健康被害
- ・ 再び事故、それと最終的に事故を解決できないこと
- ・ 本来なら放射線管理区域 (4 万Bq/m²を超える) にしなければいけない。地域に特措法を出して人が住み、農作物を作り大丈夫かのようにしている。子どもたちの将来は大丈夫か
- ・ 政府の原発政策 (依然原発をほぼ凜然と推進していること)
- ・ 季節ごとの体に良い自然の恵みを食する事が出来なくなっている
- ・ 原発の再稼働
- ・ 処理汚染水の処理
- ・ 子どもたちの健康

【中部】

- ・ 放射線が、放出され続けていること
- ・ また同じようなことが起きるかもしれないし、子どもたちの未来
- ・ 人体への影響
- ・ 絶対安全とはいえない原発 廃炉にもいろいろな問題をかかえているのに原発からの退却がないこと
- ・ 食品を通した内部被ばくの恐れ
- ・ 原発の安全性しか知らされてこなかった事で対策が事故後がない
- ・ 現在でも原発事故の影響が残るのに原発が政策として維持されていること
- ・ 再稼働、事故
- ・ 大きな原発事故だったのでどう影響があるか知らされていない
- ・ 日本・世界の未来
- ・ 食の安全と環境への影響
- ・ 汚せんされていることは明らかなのに、皆平気なこと、対策をしていないこと、コロナより重要ですのに!
- ・ 放射線による病気
- ・ 処理汚染水による海産物・魚など食べていいのか
- ・ 自然への影響、子どもたち(福島に限らずすべて)への影響
- ・ 正しい情報、国民を守る情報が届かないのではないか
- ・ 福島第一原発からの放射線(能)流出
- ・ 海産物の汚染 山の幸の汚染
- ・ 長期にわたる被曝(低線量)が、子どもたちの将来
- ・ 放射線被ばくの危険性、汚染がどこまで広がっているのか、海など環境汚染への不安
- ・ 日本の原子力政策
- ・ 食べ物
- ・ 福島又は、それ以外の原発で再び事故がおきるのではないかということ
- ・ 被爆した方々の今後の健康状態

【中部】 つづき

- ・日本には、他にも原発が各所に在る事が不安です
- ・頻発する地震(昨夜 11/22 も茨城北部で震度 5)で、まさか?、又?、と不安になる
- ・福島原発事故の原因が津波とされ、原因究明されぬまま次々再稼働されようとしている。プルトニウムは人間には扱えない。今後どう処理し減らしていくのか考えるべきだ。
- ・再び同じことを繰り返さないか
- ・自然環境
- ・汚染水の処理が進んでいない。全国に汚染食品が出回っている。原発再稼働など
- ・近年、埼玉から愛知に引越して体の緊張感が全く違う。また近々千葉に引越すので今後の健康
- ・汚染が広がること
- ・志賀原発における事故、放射能もれ
- ・廃炉作業中の事故、除染土の再利用による拡散、放射能による健康被害
- ・ガン罹患
- ・福島だけでなく全国各地に原発がある、その一つでも事故を起こしたらどうするのか
- ・実家が茨城県取手市にあるがそのままで良いか
- ・農産品
- ・子の将来
- ・①廃炉のめどが立たない ②日本の対原発政策(原発廃止の方向性あいまい)
- ・まだ日本に原発があるので、ニュースで福島のニュースをきいた時
- ・健康被害
- ・福島で起こったことは、他の地域にも起こりうるのでは
- ・食材について不安がある
- ・放射線についてマンネリ化して、脅威に感じている
- ・もし、再び原発事故が起きた時
- ・放射能汚染、政府・東電の対応
- ・特に次世代への悪影響
- ・サイクルとして未完成な原発に頼らざるを得ないエネルギー政策について
- ・海水、空気は見えないが何らかの影響があるのではないか
- ・福井でも起き得るなあ。このまま原発への依存からは脱けられないのだろうな、という事
- ・自分自身は不安ではないが大熊町から避難されている知人家族のぬぐいきれない将来への不安を見聞きすると気の毒であり不安である
- ・これからの世代の方々の健康
- ・政府や東京電力などの情報公開
- ・子ども、孫の世代への影響
- ・正確な被害状況把握
- ・食物で放射能を接種しているのでは
- ・食物による内部被爆
- ・ヒバクが目に見えないため、子どもたちの体や将来について まだずっと冷やし続けなくてはいけない
- ・テレビでの映像
- ・狭い日本の国内で起きた事なので何らかの影響があるのではないか
- ・子ども達の健康を守ること(心身)
- ・日本全国の原発に何とも言えない不安を感じる
- ・本来あるべき姿にすべてがもどれるのかどうか
- ・今後、他の原発が再稼働すること
- ・放射能を出してしまったので、食べ物、飲み物、空気など何かしら影響がある
- ・事故前より放射線の汚染基準が緩められた事の影響
- ・近くの原発での事故による放射能汚染・核兵器による放射能汚染
- ・今後施設の処理をどうしていくのか
- ・自分や家族が少しずつ被ばくしていること
- ・子どもたちの健康
- ・特に感じているのは海の汚染です

【中部】 つづき

- ・ 原発が存在し続けていること

【近畿】

- ・ 今後も放射線が同じ位かもっと同じ影響が出てくるのではないかな
- ・ 福島をはじめとする関東の子ども達の心の状態
- ・ 単なる東電原発のみならず、日本中の原発事故の心配がある。特に関電原発—金間行動(キンカン)に行っている
- ・ そもそも、2 万年も残る有害物質ができるのを、発電に使うのはナンセンス
- ・ 子ども、孫の健康被害
- ・ 認識できる以上の長期間、継続的な責任を持って管理できるのか
- ・ 若狭の原発が同じ事故を起こす
- ・ 高浜原発が近いので、地震時の事故
- ・ 過ちをくり返さないか心配
- ・ 他の原発でも同じような事故がおこるのではないかな、その可能性について
- ・ 月日が流れても、放射能の影響が、目にみえず、進んでいるだろうということ
- ・ 子ども達の健康全般
- ・ 他の原発でも同様の事故が発生する可能性
- ・ どんな症状がでるのか知り、何に気をつけたらいいのか分からないこと
- ・ チェリノブリのニュース等から放射能の人体への被害を心配する
- ・ 日本各地に原発があるが、それらが事故や地震などで壊れたら恐いです
- ・ 事故当時娘が(横浜在住)妊娠していました。その子は 9 歳、将来的に健康でいられるのか案じています。
- ・ 汚染水のこともあるが、本当は事故は治っていないから。
- ・ 地震があるたびに原発は大丈夫かなと思います
- ・ どのように処理していくか
- ・ 未だに原発を動かしている事
- ・ 食物について
- ・ 食の安全には恒に不安
- ・ 生命の連続性
- ・ 現地の方々の苦しさ悲しさを、不安を理解しきれないこと
- ・ 残留放射能の身体への影響、土、食品(野菜、魚)から
- ・ 残留放射性物質の処理
- ・ 原発が再稼働(特に関西電力福井県で)している現実に対して、事故への不安
- ・ 事故当時盛んに言われていた半減期の話はどうなったのか。海や土の食物に蓄積しているのでは
- ・ 原発に関して、国際的にも安全面で劣っている
- ・ 長期に渡って続く環境汚染の影響
- ・ 地球の未来に悪影響を及ぼしているのだろうかという不安
- ・ 今、大阪に住んでいるが遠く離れていても健康の影響がないのか
- ・ いつ収束するかわからないこと
- ・ 被ばくさせられた子達や住民方の、永久的な健康の心配が、心身に影響
- ・ 自分達の所にも放射線被害が来るのではないかな
- ・ 大きな地震があると、いつも福島以外、他の原発もないところであるように祈りながら震源地を見る
- ・ 動いているいないにかかわらず、何かの原因でまた原発事故が起こりうるし、政府の対応には期待できないこと
- ・ 正確な情報が出ず、判断の材料が極端に少ない、又終わったような雰囲気
- ・ 原発があるかぎり、どこにでも事故の可能性があること
- ・ 地震の多い島国の日本で原発を続けていること
- ・ 日本中空や海は流れているので放射能汚染している
- ・ 食べ物からの体への影響がいつまで続くのか
- ・ 子ども達の未来と今後も起こるであろう大地震に対する不安
- ・ パンフに載っている子ども達をみると胸が痛む

【近畿】 つづき

- ・コントロールが出来なくなって再び大量に放射性物質が拡散される
- ・国の原発対策、裁判の行方

【中国・四国】

- ・放射能
- ・原発の使用済み燃料の処理方法
- ・原発はいつ事故を起こすかわからない。常に怖さを感じる。
- ・岡山へ東北から避難している人々の生活
- ・他の原発でもあり得る事故、汚染が消滅するのか
- ・長期的な自然、動物、人への影響
- ・放射能の影響が何らかの形で出るのではないかと言う事
- ・海の汚染の事(日本の他の原発について廃止すべきと思う)
- ・今後の環境について
- ・汚染水を海に流すのは嫌だし作業している人たちの危険性
- ・地球の未来の環境
- ・海やその他環境汚染は地球全体に影響があるのではないかと
- ・関東(東京、神奈川)に住む2人の子の健康
- ・忘れてしまうこと、うやむやになってしまうこと。何が安全で、何が危険なのかの判断。
- ・自分たちの子孫などの世代の病気
- ・日本は未だ原発推進に動いているため地元の安心が疑問。
- ・無理することができない、原発から出るゴミを未来に残すこと
- ・愛媛県内に原発があり、同様のことが起こる可能性がある。
- ・食品摂取

【九州】

- ・これからもっと顕在化していくであろう命全般（自然も含めて）の異変・この時代に生きている者としての責任
- ・食品への影響
- ・放射能汚染・子供たちの健康（大人も含む）
- ・放射線による健康被害
- ・未来の環境とかへの影響
- ・南海トラフの大地震が起きた時、四国の伊方原発がどうなるのか、その他の原発についても
- ・核と生物は共存できない
- ・健康被害。又は、それを心配した来日客減少
- ・汚染の拡散・汚染物質の処理
- ・近接地の原発の存在、風評被害（県産品の農水産、牛肉等）
- ・放射能の被害
- ・鹿児島に帰ってから甲状腺にのう胞（多）と結節があることが分かりました。脳腫瘍のOPEもしたので、常に体の健康状態について不安
- ・食べ物に不安を感じる、主に魚関係
- ・原発事故の記憶の風化と発電所再稼働容認への国や行政の動き
- ・子どもへの心身への影響。食物の汚染
- ・九州にも原発があります。必要ないのではないかということ
- ・近辺にある原発事故、原発の情報は信用できるのか
- ・地元にも原発がある（20キロくらいの距離）ので、放射能汚染は他人事ではないと思う
- ・今も原発事故が原因で生活に支障をきたしている方々の状況が改善されてなこと
- ・目には見えない被曝の遺伝的影響。人だけでなくあらゆるすべての生物
- ・結局丸い地球にあって逃げれる術はないと考える
- ・トリチウムや他の放射線物質の流出が続いている

【福島→県外】

- ・生まれ育った地域がカタカナで表記されたり、自慢できる県でなくなった
- ・健康状態よりも、子どもをないがしろにするこの国の政府と国民に対して
- ・健康への影響
- ・外部被ばくや内部被ばくによる晩発生障害
- ・事故をなかった事とし、汚染をかくし、原発推進する政府に怒りを感じます。
- ・最初～現在まで信用できない国の言動と、またいつか同じ事が起こってしまった時、あの時の事を教訓にできる程の解決策や対応策を講じていない事
- ・自分よりは生まれてきた子どもについてや、私の身体、この先の事
- ・ふるさとを失った（と思う）人達に、何と声かけして、寄りそったらいいいのか？ 理性は「あきらめなさい」、感情は「あきらめずにがんばれ」、どっちが正しいか？？？
- ・これだけの事故や被害がおきているにもかかわらず、政治家や市民の考え方がかわらないことがこわい。人間に対する不信感。
- ・健康について将来について子どもたちのこと
- ・東京電力も国もうそをつくから
- ・不安であると心のバランスを崩してしまい、正しい判断ができていない可能性もある。また、ストレスをかけた生活は、心身を痛めてしまう。そんなことを考えると、無関心で、心に負担をかけない人たちの方が賢いのかもしれない。どうしようもないことなら、情報を一切出さずに無いことにするのも有りなのかもしれない。しかし、気がついてしまえば心に蓋はできない性分なので、怒りでバランスを崩さないよう心がけていますが、正気を保っているのか、時折不安になります。
- ・終わりががないのに、全てが終わりにされていこうとしているから（賠償、1Fからの飛散、廃炉作業、除染）
- ・子どもの出身地がわからない
- ・移住したことが子ども達の成長過程に与える精神面の影響

【県外→福島】

- ・被曝線量の蓄積による異常の発生や原発自体の再メルトダウンや事故
- ・子どもの子どもの影響はないのか
- ・子ども達が大人になって影響が出るのではないかという事
- ・子どもの将来
- ・体調
- ・汚染された中で、普通に暮さなければならない事
- ・将来の健康に影響があるのか
- ・将来的な健康被害
- ・子どもへの健康被害、発達への影響

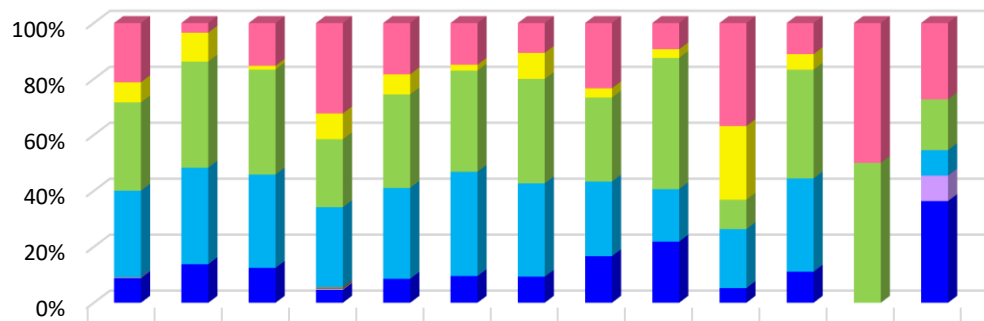
【海外→県外】

- ・今後の福島の方の生活が元に戻るのが難しいこと

【地域不明】

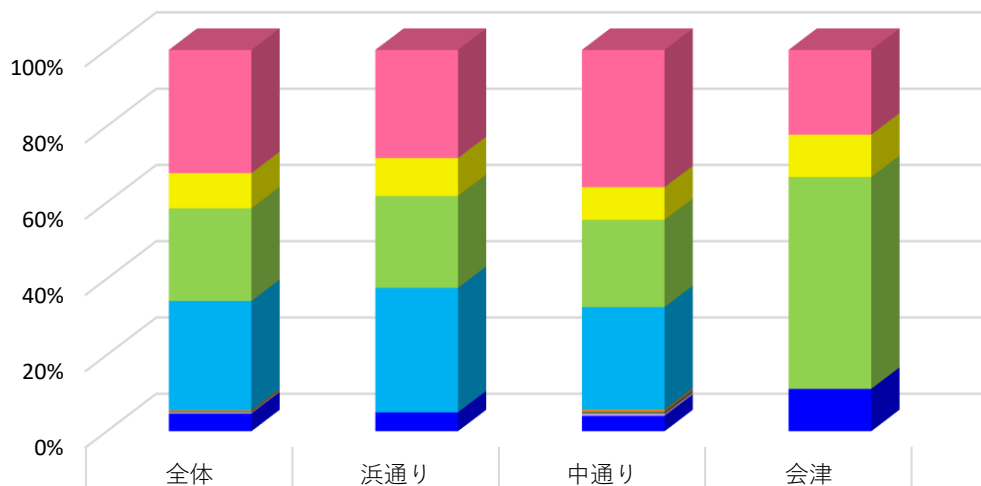
- ・今後の健康（子ども、孫）福島の状態、事故処理
- ・遺伝子に変異をきたしていないか不安
- ・いつ病気になるか確率を知りたい
- ・放射線
- ・食品に対して大丈夫なのか（福島県産のもの）
- ・周辺の状況が伝わる手段が少なく細くなって詳細が判らないため

Q23. 現在までの本人や家族の心身の健康状態に、原発事故による環境汚染が影響していると思いますか。



■ 影響もあると感じる	241	1	11	105	79	14	8	7	3	7	2	1	3
■ 影響もあると確信している	82	3	1	30	31	2	7	1	1	5	1		
■ 影響はないと思う	359	11	27	79	144	34	28	9	15	2	7	1	2
■ これまでは影響はなかったがこれからはあるかもしれない	352	10	24	93	140	35	25	8	6	4	6		1
■ ①と④を選択	1			1									
■ ②と④を選択	1			1									
■ ③と④を選択	2			1									1
■ 無回答	100	4	9	15	37	9	7	5	7	1	2		4
合計	1138	29	72	325	431	94	75	30	32	19	18	2	11

【福島県の内訳】



■ 影響もあると感じる①	105	40	63	2
■ 影響もあると確信している②	30	14	15	1
■ 影響はないと思う③	79	34	40	5
■ これまでは影響はなかったがこれからはあるかもしれない④	93	46	47	0
■ ①と④を選択	1		1	
■ ②と④を選択	1		1	
■ ③と④を選択	1		1	
■ 無回答	15	7	7	1
合計	325	141	175	9

【北海道】

- ・北海道は汚染から遠いのでどちらかといえば情報による心理的ストレス

【浜通り】

影響があると確信している

- ・二女が心配です(甲状腺検査で毎回再検査指摘)
- ・次男は当時の話を全くしない

【関東】

影響もあると感じる

- ・長女が特に食に対して敏感になっている
- ・ある意味影響がある。健康への意識が高まり以前より健全な生活になった。

その他

- ・コロナを含めてこれからが心配
- ・あるともないとも思えない

【近畿】

- ・原発は福島だけではない

【九州】

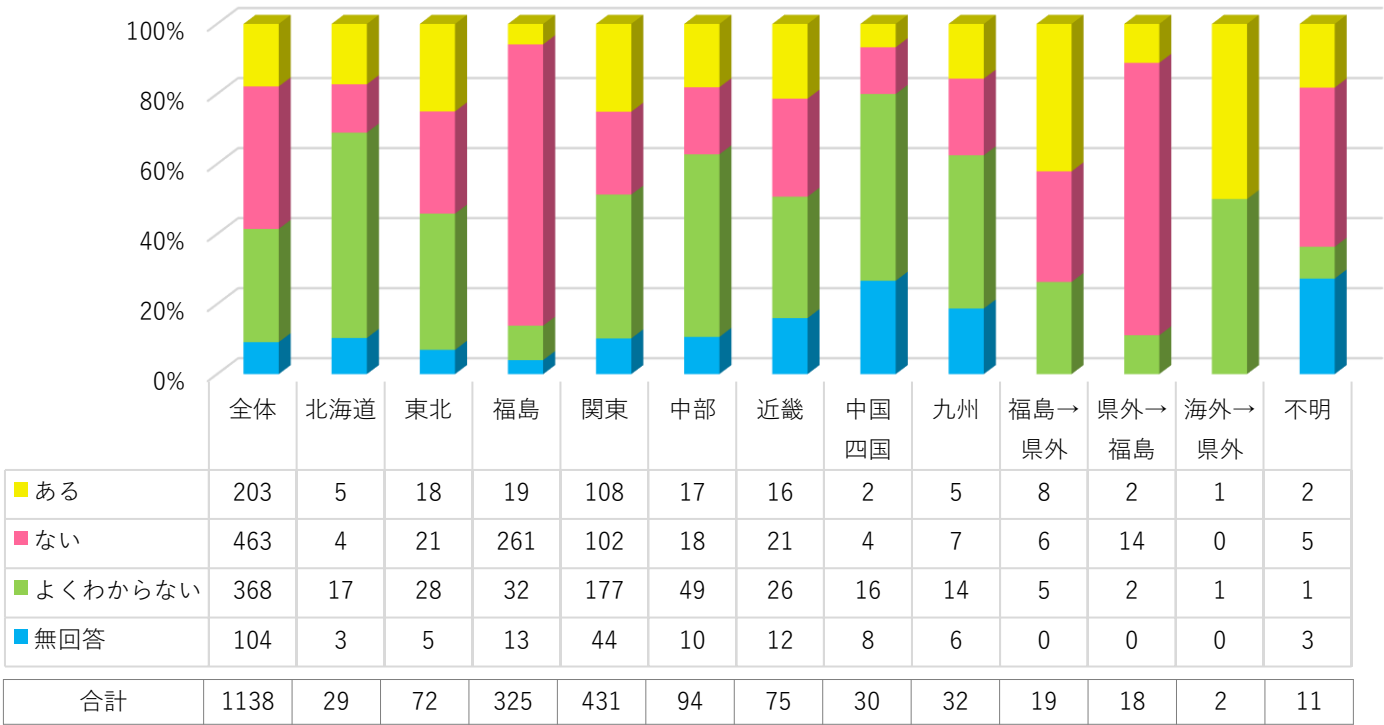
- ・潜在意識的には何らかの不安は有ると思いますが

【福島→県外】

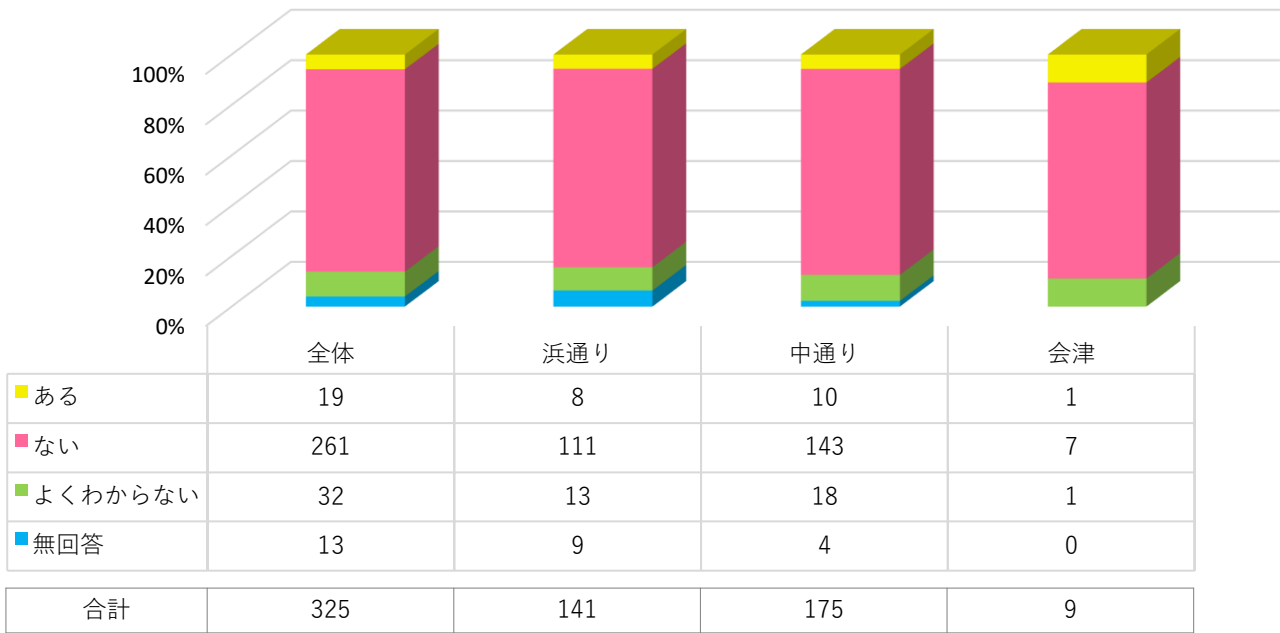
- ・約2年間郡山で本人は一人暮らし、食生活もかわり不安もあり体調崩す
- ・精神面

Q24. 福島出身のお子さんに対するいじめや差別を感じることはありますか。(福島県外在住対象)

Q24. あなたやあなたのお子さんに対するいじめや差別を感じることはありますか。(福島県内在住対象)



【福島県の内訳】



【東北】

ある

- ・身の回りではないが報道その他の情報からあることを知っている

【浜通り】

ある

- ・いじめや差別ではないが、ママ友とも温度差を感じる

よくわからない

- ・今はないが当時はあった

【関東】

ある

- ・新聞報道などから
- ・練馬在住の被災者のお話を伺った限りでは

ない

- ・私の周りではない
- ・私の周りには
- ・健康を守っていかないといけない、特別感があります
- ・聞いたことはある
- ・身の回りでは
- ・身近にない

わからない

- ・メディアの報道のみで身近に機会はない
- ・TV報道であると聞いている
- ・見あたらない
- ・対象者がいない
- ・周囲にいないので
- ・実際身近では行っていない
- ・身の回りにいない
- ・ニュースでは見る
- ・直接感じる機会はない

その他

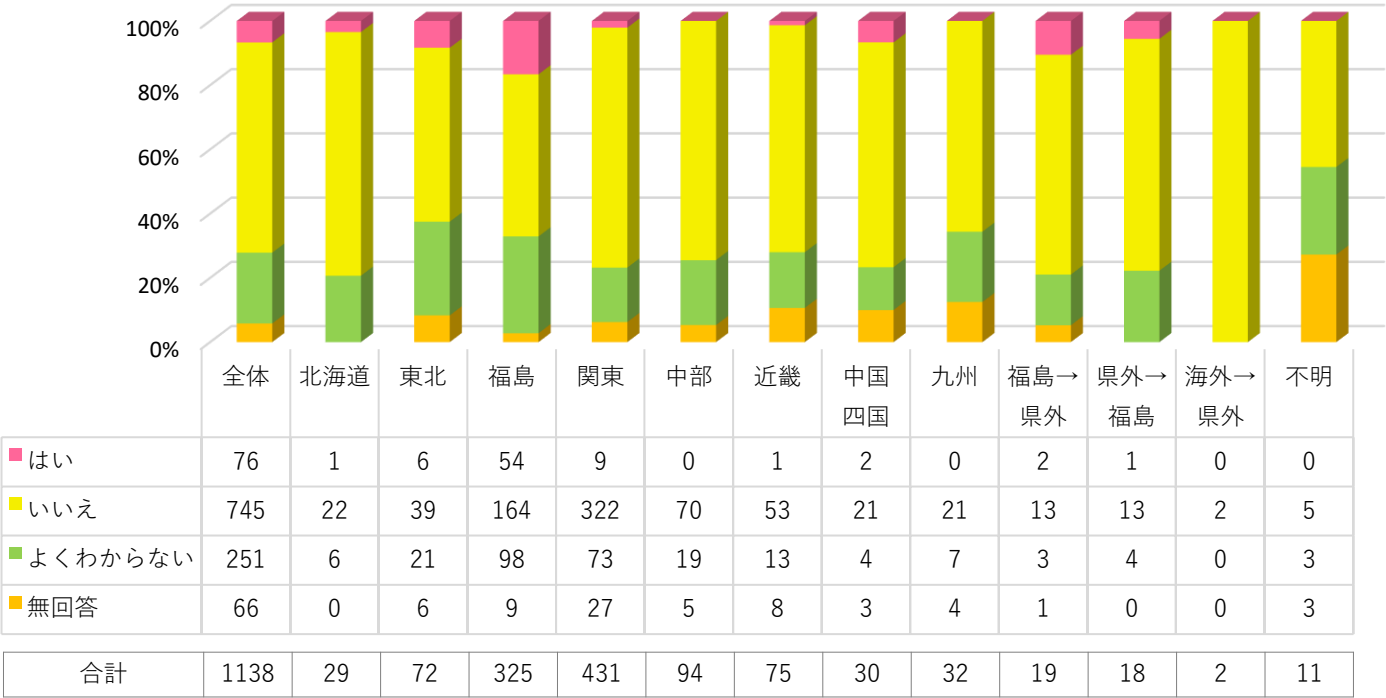
- ・一度ついたイメージは消えにくいです。
- ・身近に福島県出身のお子さんがいません。

【近畿】

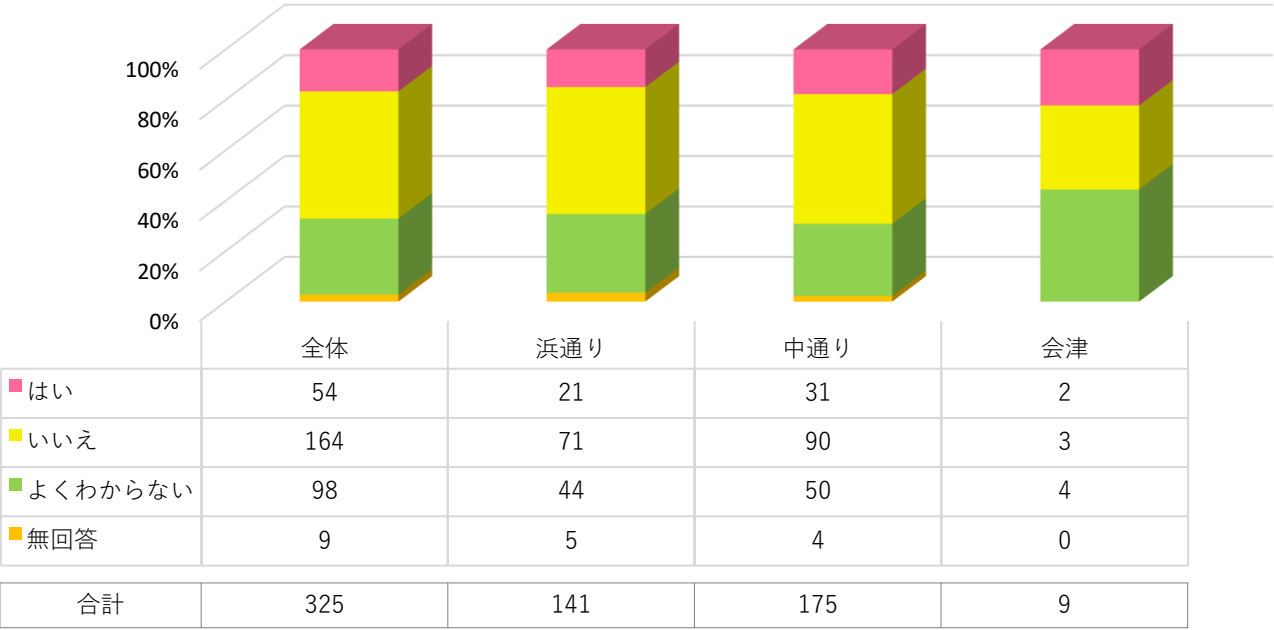
- ・福島の子どもたちの明るい未来を願っていますが、我が子が結婚相手を持ってきたときに、赤ちゃんに影響がないのか…感じてしまうのではないかと思います
- ・周りにいないので関係をもったことはない
- ・人による、行政、社会性による
- ・大阪ではあまり感じられない

Q25. 震災から現在までの間の公的機関からの対応は十分だと思いますか。(福島県外在住対象)

Q25. 震災から現在までの間の公的機関からの対応に満足していますか。(福島県内在住対象)



【福島県の内訳】



【東北】

いいえ

- ・自分には何もないが、被災した人々に対しては不十分だと思う

【浜通り】

はい

- ・北海道に二女がいるため、病院検査ができない

【関東】

いいえ

- ・全然だめ
- ・線量が高いのに帰還命令、政府はおかしいと思う、二次災害です

よくわからない

- ・公的機関を具体的に

その他

- ・充分すぎて依存する人が増えてる
- ・

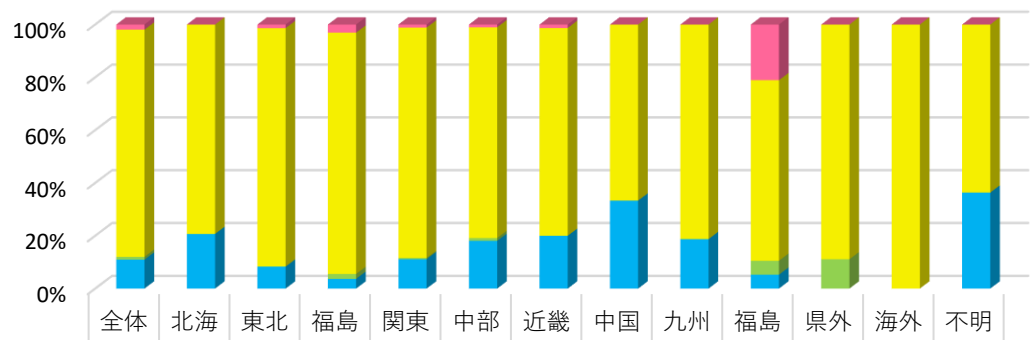
【中部】

いいえ

- ・避難訓練、ヨウ素剤など事故対策は手厚くなったが、再稼働容認なら意味がない

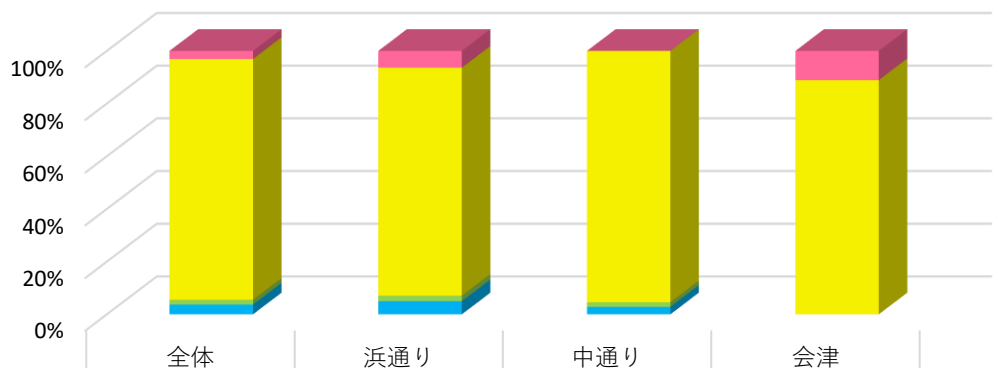
Q26. 東日本大震災以後、原発事故などに対する考え方の違いが原因で離婚や離別をしましたか。(福島県外在住対象)

Q26. 東日本大震災の地震・津波・原発事故が原因で離婚や離別をしましたか。(福島県内在住対象)



はい	22	0	1	10	5	1	1	0	0	4	0	0	0
いいえ	979	23	65	297	376	75	59	20	26	13	16	2	7
離婚はしていないが、別居をしている	12	0	0	6	2	1	0	0	0	1	2	0	0
無回答	125	6	6	12	48	17	15	10	6	1	0	0	4
合計	1138	29	72	325	431	94	75	30	32	19	18	2	11

【福島県の内訳】



はい	10	9	0	1
いいえ	297	122	167	8
離婚はしていないが、別居をしている	6	3	3	0
無回答	12	7	5	0
合計	325	141	175	9

【東北】

いいえ

- ・事故があった時もともと反原発だった私と夫の間で原発について言い合いになっただけ。今は夫も理解している

【関東】

はい

- ・別の理由で離別した。
- ・8年を迎え離婚を切り出され別居している

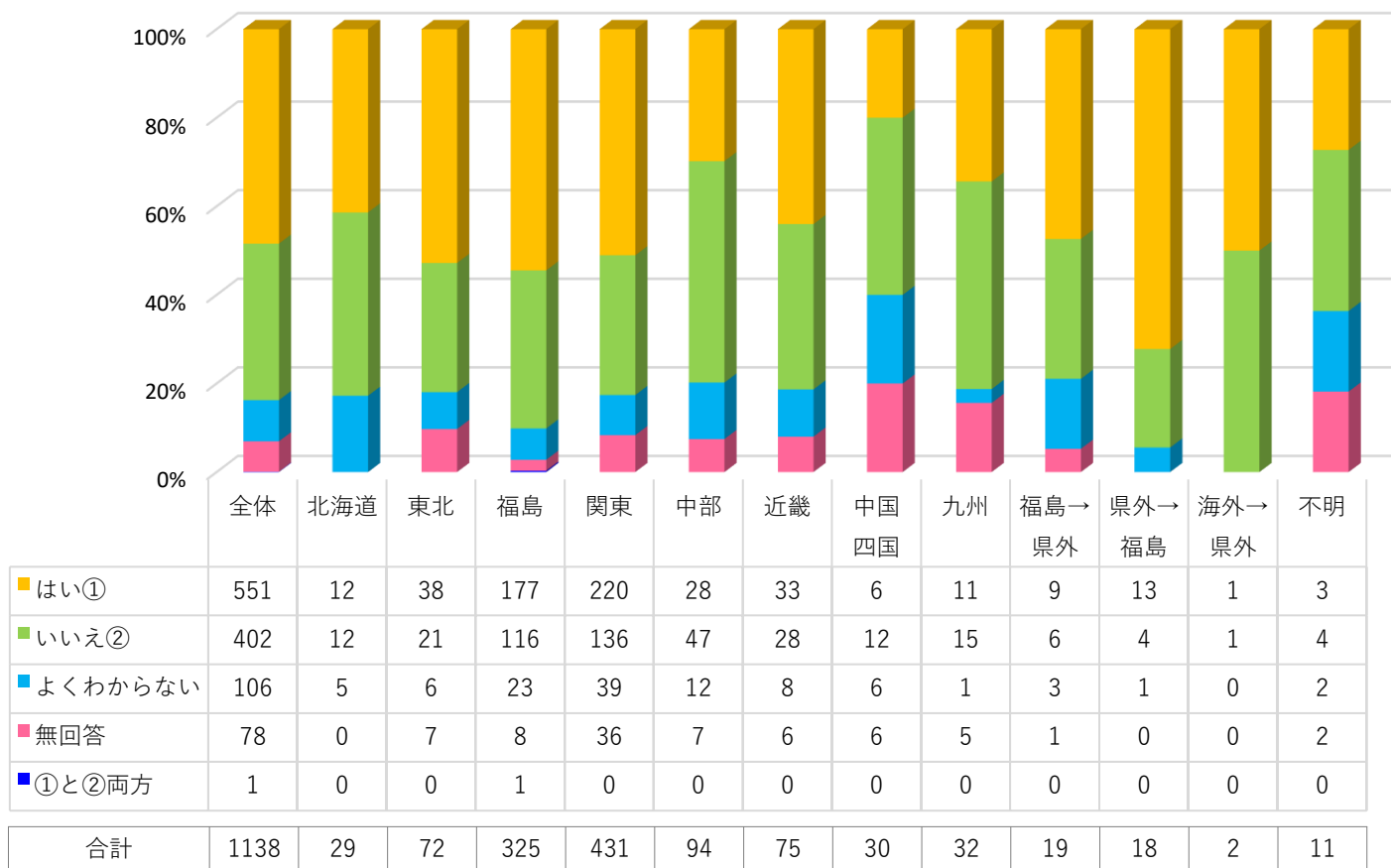
いいえ

- ・我が家は原発反対です
- ・独身です

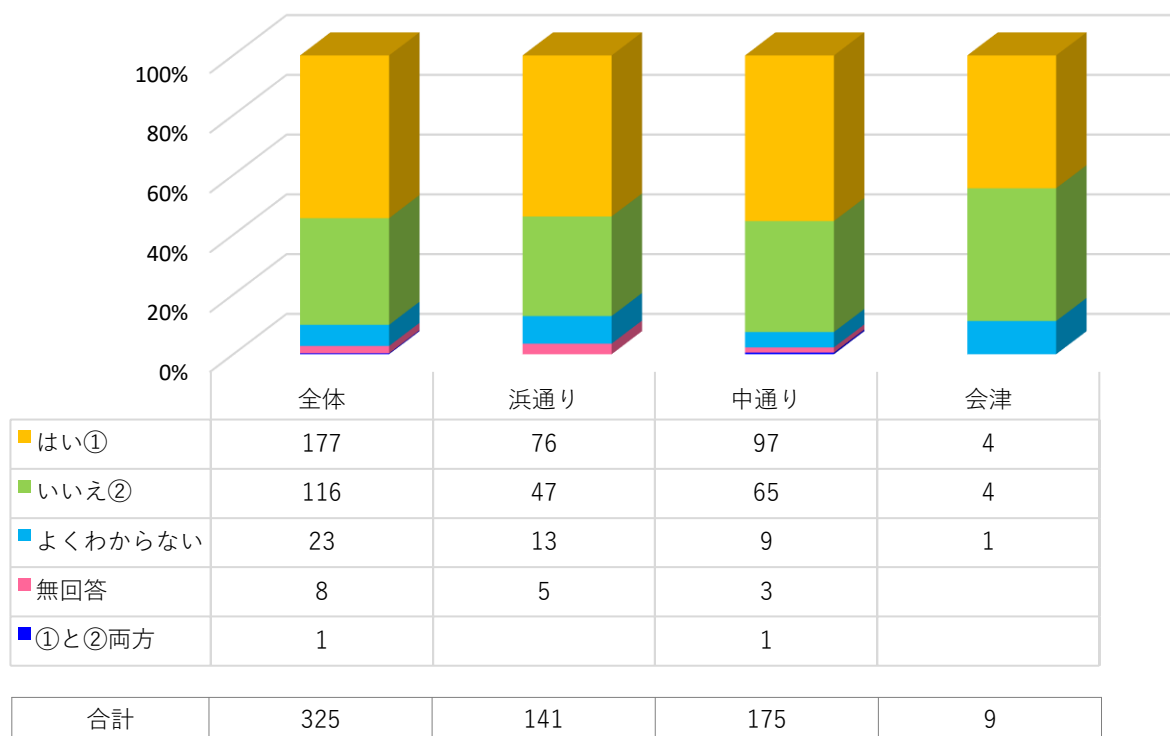
【近畿】

- ・離婚はしていないが、別の心にある

Q27. あなたやあなたのお子さんの活動エリアの放射線量について心配になる時がありますか。



【福島県の内訳】



【関東】

はい

- ・生協班か道路測定チラシで可視化、注意して拝見してます。
- ・私は子どもがいません
- ・子どもはいませんが

いいえ

- ・今はない 2名
- ・以前はかなりあった

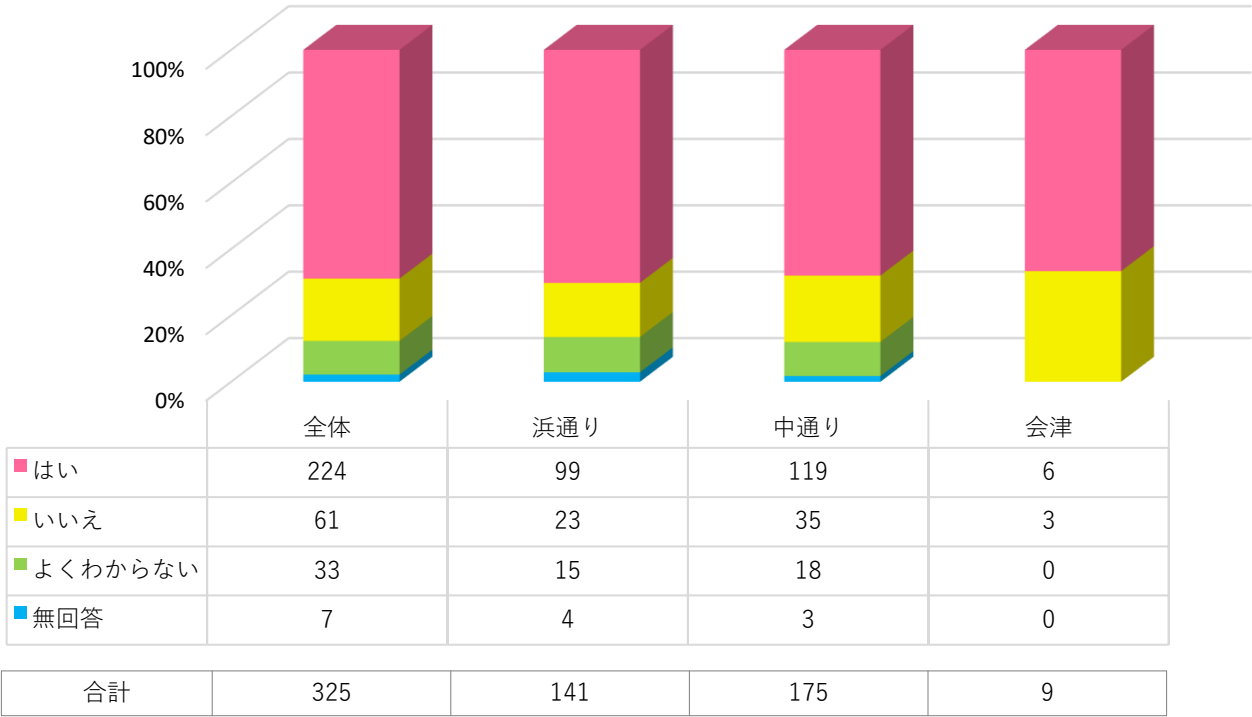
その他

- ・去年50メートル位の公園で400ベクレル、前の入り口小川で500ベクレル、土手で1000ベクレル。
- ・長女・次女はたまたまずっと海外に、三女は原発後に沖縄に移住
- ・ずっと関心があったので、昨年有志の会の集まりに行きました。あるお母さんが地域の保育園の園庭の放射線量の測定をして、汚染土の扱いについて管轄の役所とやりとりをした話をききに行きました。「原子力ムラ」の圧力なのか何かわかりませんがこの問題はずっとタブー視されていますよね。それがよくわかりました。ただ彼女のお子さんは症状が出ました。今は治っているようです。

Q28. あなたやあなたのお子さんの将来に不安を感じることはありますか。



【福島県の内訳】



【浜通り】

よくわからない

- ・ 県外の人はどう思っているかわからない

【関東】

はい

- ・ 他の子ども達も同じこと
- ・ 私は子どもがいません

いいえ

- ・ 今はない 2名
- ・ 現在の福島の現状では特に問題ないと思う

よくわからない

- ・ 将来どうなるかわからないが今出来る事をし、不安にならない生活を心がけている